

令和8年度（2026年度）第1回熊本県総合教育会議 議事録

期 日：令和8年（2026年）4月28日（火）

時 間：10：00～11：00

場 所：熊本県防災センターB01 会議室

出席者：熊本県知事 木村 敬

熊本県教育長 越猪 浩樹

熊本県教育委員 田口 浩継、西山 忠彦、三淵 浩、

園田 恭子、渡辺 絵美

議 題：（報告）熊本県の公立学校における働き方改革推進プラン（業務量
管理・健康確保措置実施計画）

（議事）高校教育改革（高等学校等教育改革促進基金）

【事務局】

ただ今から「令和8年度第1回熊本県総合教育会議」を開催いたします。私は事務局を務めます教育政策課の藤田でございます、どうぞよろしくお願い申し上げます。議事に先立ちまして木村知事から御挨拶をいただきます。

【木村知事】

本日はお忙しい中、教育委員の皆様にお集まりいただき誠にありがとうございます。日頃より本県教育行政の推進に御尽力いただいておりますことを、心より御礼申し上げます。

この総合教育会議は大綱の策定を初めとして、教育、学術、文化の振興を図るために講ずべき施策について、協議をするという場でございますけれども、例年10月ぐらいに開催しています。今回は重要なテーマがありまして、第1回の会議を4月に開催させていただくことになりました。場合によっては年度で複数回開催するかもしれませんが、それだけ我々として非常に重視しているところでございます。2回目の会議は10月に行いたいと思っています。

私は知事になって、この4月で2年になりますけれども、やはり行政の一番大きな柱に教育があると思っています。よく福祉と教育と言いますが、すべて人づくりに関わるものですから、やはり全ては教育に繋がると考えています。県内各地で開催する「お出かけ知事室」においても、教育について毎回御意見をちょうだいしています。やはり県民にとっても教育が大きな関心事であるということを改めて感じています。

ただ一方で、教育現場では、いじめや不登校問題への対応、教員の不足、情報化、多様な学びの場の提供、働き方改革と非常に大きな課題を抱えています。そうしたものに私たちも教育大綱の中で、「自らの可能性を拓け、未来を

切り開く「熊本の人づくり」、この大きな目標を実現するためには、教育委員会の皆様のみならず、教育委員会と私たち知事部局がしっかりと連携して課題に向き合っていかなければいけないと思っています。

今回4月にこの会を開催させていただいたのは、本県の最重要課題の1つである高校教育改革について御審議いただきたいと思っています。国から2月に基本方針が示されまして、今、高校教育が大きな転換点にあります。私立高校の無償化などの中で公立高校の在り方が問われていますし、少子化の中で様々な社会課題に対応していく、または生きる力をつけていくために、教育をより深めていく深化が必要だと思っています。そうした中で今回、高等学校教育改革促進基金を活かして熊本の高校教育改革を、アクセルを踏んで、推進していきたいという思いがございます。

そうした中で本日の会議では、教育委員会の皆様と今後の取組の方向性について、忌憚のない意見交換を行わせていただいて、教育委員会と知事部局が1つになって教育行政を推進して参りたいと考えています。どうぞ今日は教育委員の皆様それぞれの御立場から様々な御意見を賜りたいと思いますので、よろしく御願い申し上げます。

【事務局】

ありがとうございました。本日御出席の皆様の御紹介につきましては、席に配付しています出席者名簿をもって代えさせていただきますと思います。本日の進行及び議長につきましては木村知事に御願います。知事よろしく御願います。

【木村知事】

進行、議長を務めさせていただきます。よろしく御願います。この会議は先ほど挨拶で申しましたように、知事ないし知事部局と教育委員会が十分な意思疎通を図って地域教育の課題を共有して、より一層の民意を反映した教育行政を推進するよう実施するものですので、ぜひ忌憚なき意見交換をいただければと思っています。まず本日の会議についてですけれども、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定に基づいて、公開とさせていただきたいと思いますがよろしいでしょうか。

<異議なしの声>

ありがとうございます。本日の会議は公開のもとで進めていきたいと思えます。それでは次第に沿って、最初に報告事項です。熊本県の公立学校における働き方改革推進プランについて報告します。教育政策課から詳細の説明を御願

いします。

【永田教育政策課長】

教育政策課です。お手元資料の令和8年度第1回熊本県総合教育会議表紙、オレンジ色の表紙で、2枚ものになっています。それを御覧ください。めくってブルーで右肩に資料1 熊本県の公立学校における働き方改革推進プランの資料の裏面です。こちらが、県の働き方改革推進プランの概要です。

資料の上部枠内です。昨年6月に公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法、いわゆる給特法が一部改正され、都道府県及び各市町村教育委員会において業務量管理・健康確保措置実施計画の策定公表及び取組の実施状況報告等が義務づけられました。本県教育委員会では、この給特法改正を受けて発出された国指針の内容に則して、本年の2月に第二期の働き方改革プランを改定して、業務量管理・健康確保措置実施計画に位置付けて、取組を推進していくことにしました。この資料中のアンダーラインが、新たに追加した内容です。

資料の中ほどにある評価指標のうち時間外在校等時間については、教職員から事務職員や技師、学校栄養職員を除いた教職員のみ目標値を追加しました。教職員同様、県立学校、市町村立学校ともに、令和11年度までに時間外在校等時間 月45時間以内の100%達成に向けて、取組を進めていくこととしています。目標達成に向けた取組として、これまで取り組んできた国の3分類に基づく業務の見直し等の推進を、給特法の改正に伴い、国から新たに示された学校または教師の業務の3分類に基づく業務の見直しの推進に改め、より強力に取組を進めていきます。この3分類は、学校の業務を、1つは学校以外が担うべき業務、1つは教師以外が積極的に参画すべき業務、最後に教師の業務だが負担軽減を促進すべき業務の3つに分類したものです。また、持ち帰り業務防止の徹底、休憩時間の適正な付与、登下校時の通学路における日常的な見守り活動の廃止の徹底と、各種団体への見守り活動の協力依頼を追加して、取り組むこととしています。

この計画は各市町村教育委員会での策定等が義務づけられており、既に県内の全市町村が策定をされています。県教育委員会では、県立学校、市町村立学校ともに各目標が達成できるよう、市町村教育委員会が策定した業務量管理・健康確保措置実施計画の推進に対する支援も含め、学校における働き方改革を推進し、教職員が子どもたちと向き合う時間を創出し、「こどもまんなか熊本」の実現に向けて取り組みます。以上で御報告を終わります。

【木村知事】

報告事項について、皆さんから何か意見ございますか。よろしいですか。では続いて議事に移ります。本日の大きなテーマである高校教育改革について、皆さんと意見交換をしっかりとさせていただきたいと思っております。議事の進め方は、担当室長が資料を説明した後、意見交換をさせていただきたいと思っております。で

はまず担当室長から、資料の説明をお願いします。

【久多見高校改革推進室長】

高校教育課高校改革推進室です。資料2をお手元をお願いします。高校教育改革について説明します。まず1ページを御覧ください。高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン）【概要】です。こちらは文部科学省が、今年の2月に2040年に向けた高校教育の全体構想として公表したものです。詳細な説明はここでは省略しますが、AIの進化、少子高齢化、地域格差という社会構造の急激な変化に対応するため、国がリーダーシップを発揮しながら、自治体や学校との適切な役割分担のもとに、高校教育改革を加速することとされています。

続いて、2ページを御覧ください。一番上の構想の中核となる高校支援です。御紹介した国のグランドデザインをもとにして、各都道府県は高校教育改革のための実行計画を策定する必要があります。その実行計画に基づく取組を進めるための新たな財政支援の仕組みを、国が令和9年度予算編成過程で検討するという流れが示されています。その下に、小さく※印で記載をされていますが、これに先立ち、高校教育改革のための基金を都道府県に造成し、構想実現のためのパイロットケースとして、先導的な学びのあり方を構築する高校、改革先導拠点という言い方をしていますが、これを作るとされています。

続いて、3ページを御覧ください。ただいまの説明を、本県に当てはめたイメージです。本県では、令和6年度から7年度にかけて、県立高校のあり方検討を行い、昨年9月に検討会から提言をいただいたところです。この提言の内容と国のグランドデザイン等とを踏まえ、県の高校教育改革実行計画を年度内に策定し、令和9年度以降の取組を進めていきます。この流れに先立つ形で、表の下の緑色の部分、基金を活用した先導的な取組が求められているということです。

続いて、4ページを御覧ください。先ほど基金という言葉が出てきましたが、こちらは国が示した高等学校教育改革促進基金の資料です。昨年11月に閣議決定された国の総合経済対策の中で、高校改革のために都道府県が活用できる新たな財源ということで創設をされたものです。資料の中ほどに青地に白文字で、産業イノベーション人材育成等に資する高等学校教育改革促進事業とありますが、各都道府県に基金を設置して、類型に応じた高校教育改革を先導する拠点のパイロットケースを創出し、取組や成果を域内の高校に普及するとされています。その下に、3つの類型が示されています。左からアドバンスト・エッセンシャルワーカー等の育成支援。こちらは地域産業や生活基盤を支える分野での人材を育成する取組です。真ん中は理数系人材育成支援ということで、理数探究や文理融合の学びを強化して、理系進学者を増やす取組です。それから一番右の多様な学習ニーズに対応した教育機会の確保は、遠隔授業や地域資源を活かして人口減少地域でも魅力ある学びを提供する取組です。これらの取組に対して、国は予算総額2950億円を用意し、都道府県が基金を造成する経費を3年程度支援する。補助率は10分の10ということで、高校教育分野ではこれまでに例がないような内容となっています。

続いて、5ページを御覧ください。基金事業の申請スケジュールです。左側に国の動き、右側に本県の動きを記載しています。本基金事業は都道府県が国に申請を行い、国の審査会での審査を経て、事業計画の採否の判定がなされるものです。公募は2月の中旬から始まっており、本県では本日の総合教育会議での議論を経て、5月15日の最終申請を目指して取り組んでいるところです。採択された場合は6月中に、交付内定の予定となっています。

続いて、6ページを御覧ください。こちらの資料の下段の方に申請に係る注意点が 있습니다。今回の基金には様々な条件があります。特に改革先導拠点は、各都道府県から4拠点が上限とされており、前のページでもありました通り、国への申請までが非常にタイトなスケジュールであり、今回は県内各校からの意見を参考としながら、県教育委員会が主導で対象校の選定等を進めてきました。その考え方をまとめたものです。1点目は昨年9月のあり方提言の考え方、方向性を基本とするということとして、地域や関係者などとの協議を重ね、提言の中では地方部の高校をイメージして、県立高校は地域にとって欠かせない存在であるという方向性が示されたところがございます。その趣旨から、今回の基金事業は基本的には熊本市外の高校を対象としました。ただ※印のとおり、遠隔授業の強化のような取組については、そもそも地理的な制約を取り払うものであり、拠点が都市部か地方部かは必ずしも問題とならないという部分もあります。そこで、遠隔授業の拠点については受信校の教育効果を考慮し、熊本市内の高校を対象とすることにしました。2点目は、基金事業の3年間で作り上げる学校の教育改革内容や取組を幅広く県内に波及させるなどの観点から、一定の規模や学科がある高校、また、現状からの底上げが期待できる学校を対象としました。3点目は、すでに国の指定事業であるDXハイスクールなどの指定を受けている高校は重複を避けるため、対象としていません。

このような考え方に沿いまして、絞り込んだ結果を示したのが次の7ページです。左から順に、アドバンスト・エッセンシャルワーカー等育成支援については、菊池農業高校と天草工業高校、理数系人材育成支援については、人吉高校。多様な学習ニーズに対応した教育機会の確保につきましては熊本高校をそれぞれ改革先導拠点校として選定しています。

続いて資料3をお願いします。拠点校ごとの事業計画案について説明します。1ページを御覧ください。まず、菊池農業高校ではスマート農業を活用し、農業DXを推進できる戦略的農業人材育成の拠点を目指します。現状・課題として、本県は農業県であり、稼げる農林畜水産業の実現及び食関連産業の発展を目指した取組を進めているところです。一方で、農業従事者の減少や高齢化、新規就農者の減少が続いており、将来、本県の農業を担う人材の育成が急務となっています。そこで、稼げる農業従事者を増やすため、小中学生の段階から農業の魅力に触れる機会を創出しながら、テック活用能力や経営的な視点、グローバルな視点を身に付けた戦略的農業人材の育成に取り組めます。

主な取組を次の2ページに記載しています。スマート農業とDXを活用した新たな教育カリキュラムの構築。肉・乳加工製品やワインなどの6次産業化の海

外展開モデルの構築。寮や施設を開放した就農支援と地域の交流拠点の形成などに取り組みたいと考えています。

続いて、3ページをお願いします。天草工業高校では、地域で暮らし続けられる実践力を備えた地域共創型エンジニア育成の拠点を目指します。現状・課題として、本県の基幹産業である製造業は、半導体関連産業の集積等による人材需要の増加が見込まれる一方、地方部では電気や土木などのエッセンシャルワーカーの不足が深刻化しています。特に天草地域は急激な人口減少と深刻な高齢化が進んでおり、外部人材の確保も困難な状況です。そのため、天草地域全体で学びを深めるとともに、地域内で産業DXなどに対する意識の底上げをしていく必要があります。そこで、ここでは地域共創型エンジニアと呼んでいます。地域で暮らし、働き続けられる実践力を備えた人材の育成に取り組みたいと考えています。

主な取組を次の4ページに記載しています。最先端工業機器を導入するラボを活用して、地域や高等教育機関と連携した高度人材の育成、また行政機関や協力校と連携をした地域課題解決を軸とした学科横断型の防災インフラ教育の構築。また、天草市が推進しているデジタルアートの島創造事業と連携したDX教育などに取り組みたいと考えています。

次の5ページをお願いします。人吉高校では、データサイエンスを主とした理数系人材育成の拠点を目指します。現状・課題として、本県では半導体関連人材需要が急増しており、本県を含めた九州での半導体関連人材は2028年以降、年間300人程度の不足が生じる見込みとされています。これに対し、県内大学での半導体関連学部、学科等の新設の動きも進んでいます。加えて、農業、防災、医療などあらゆる分野で産業の高度化が急速に進んでおり、県内どの地域であっても理数的な素養を持った人材が必要となっているという状況です。そこで、データを活用する能力はもとより、STEAM教育を通して理数系素養を地域の課題に接続し、新たな価値を創造できる力を身につけた人材の育成に取り組みたいと考えています。

主な取組を次の6ページに記載しています。理数探究カリキュラムの構築を行い、そのカリキュラムをもとに地域の協力校と連携をした理数人材の育成モデルを開発します。また、今回の取組で整備予定の図書館などを活用して、理数の学びに興味を持つ小中学生の増加を図るための機会を創出するなど、地域への展開も図っていききたいと考えています。

次に7ページをお願いします。熊本高校では、学習機会の制約を超えてつながる多様な学びの拠点を形成を目指します。現状・課題として、熊本市外の高校で定員充足率が低下しており、学校の小規模化が進行する中、生徒が学びたい科目や高度な進学指導にアクセスできない機会損失が生じる可能性があります。また、世界的な半導体製造企業の進出に伴い、高度なIT知識や国際感覚、多様化社会を生き抜くスキル、こういったものを有する人材の需要が高まっており、実践的な学習機会の不足が課題となっています。そこで、住んでいる場所に左右さ

れない教育機会を提供するとともに、社会実装型の探究学習で生徒の地域課題解決の実装力を鍛えることで、高校が持続的な地方創生の核となることを目指します。

主な取組を次の8ページに記載しています。高い指導力を持つ教員が拠点校に整備をする遠隔教育配信センターから、協力校の多様な進路希望に応じた授業を配信することで、地理的な制約を超えた学びを整理するとともに、多様な地域の高校生同士がネットワークを通じてつながり、自らが住む地域の課題をAIやデジタル技術の実装で解決をする、社会実装型の探究活動に取り組みたいと考えています。

以上ここまでが、各拠点校の事業計画案です。本日、御議論いただきました内容を踏まえ、5月15日の申請締め切りに向けて、ぎりぎりまで内容を磨き上げたいと考えています。

最後にA3サイズの資料4をお願いします。今後、高校教育改革の推進体制のイメージを示したものです。資料の下半分にありますが、ただいま紹介した4つの改革先導拠点校がリーダーとなり、協力校や地域の自治体、企業、大学、金融機関等と連携して、それぞれの取組を進めます。これらの取組の進捗管理を、教育委員会事務局及び知事部局の関係課で構成します「高校教育改革推進プロジェクトチーム(仮)」が担います。あわせて、このチームが令和8年度中に県の高校教育改革実行計画を策定する実働部隊となるイメージです。その右側ですが、有識者や教育機関、産業界の方に参加いただき、「高校教育改革推進評価委員会(仮)」を設置して、高校教育改革実行計画の策定にあたっての御意見、基金事業を含めた取組の評価、助言などをいただくことを想定しています。そして、一番上のところですが、総合教育会議を全体の総括機関として位置付けているところです。このような体制のもと、4つの改革先導拠点校の取組、成果を他校にしっかりと普及させるとともに、高校教育改革実行計画に基づく県立高校全体での取組を推進し、地域における高校のあるべき姿を、多様な主体と協創し、県内外から選ばれる学校づくりに今後も全力で取り組んでいきたいと考えています。高校教育課の説明は以上です。

【木村知事】

ありがとうございました。大変大きな規模のテーマです。それでは意見交換に移ります。今、説明があった高校教育改革について、教育委員の皆様から、ぜひ御意見を賜りたいと思います。恐縮ですけど、まず田口委員からお願いしてよろしいでしょうか。

【田口委員】

事業計画案は大変よく練られていると思いました。そして、4校の選定についても、きちんと検討され、地域などのバランスも考えておられると思って聞いたところです。私から2つコメントさせていただきたいと思います。

まず全体共通として、高校教育改革を、もうすでに実施されていて、成功されている地域、学校を見ると、学校や県が一生懸命だけではなく、その地域の首長、地域の教育委員会、そして地元の企業、住民が一体となって取り組んでおられるところが特徴だと思いました。熊本県においても、市町村や地元の協力、企業の協力は必須と考えています。中でも高校と企業が連携することで、企業側が得られるメリット、これを可視化する必要があるのではないかと考えています。私は、今、鹿本高校のSSH事業の運営指導員として関わらせていただいています。地域の課題に取り組んでいた生徒が、ある企業と連携し、探究を深める中で、高校卒業と同時に、その企業に就職したという事例をお聞きしました。企業でも、生徒のやる気、そしてアイデアの良さ、そういう部分に期待して採用されたものであると思っています。また、八代工業高校は、マイスター・ハイスクール事業に指定され、地元の企業と連携した人材育成により、多くの生徒が県内企業へ就職しています。企業の方からお話を聞いたのですが、若手の社員を担当者につけて、高校生に会社の理念、業務内容の説明、そして実習指導に当たらせる中で、若手社員の意識が高くなったとおっしゃっています。このように高校と企業が連携することで、互いにメリットがある、Win-Winの関係を構築することが、今は基金で予算的措置がございいますが、それが難しくなっても、安定的な高校教育改革に繋がると考えています。

2つ目です。天草工業高校、地域共創型エンジニア育成についてコメントです。今、10年ごとに改定される学習指導要領について検討されており、現在、中教審で議論がなされていますが、小中高を通じた情報教育の充実が提案されています。2031年度、令和13年度から、中学校で全面実施される見通しですが、中学校への情報・技術科、まだ仮称ですが、それが新設される予定です。情報技術教育を充実するとともに、これまで技術科で行ってきた金工や木工、電気、機械、栽培などの学習についても、全て情報技術を基盤とした内容に修正するという案であります。熊本県ではTSMCの進出に伴い、半導体人材の育成を急速に強化中です。熊本大学や県立大学では教育プログラム開発、高専では台湾の大学との交流など行っておられますが、それを踏まえ、それらを下支えする小中高一貫したDX教育を考えてみたらどうかと思っています。具体的には、専門性を持った、例えば工業高校の先生方、情報の先生方が、地元の小中学校と連携し、学校の先生方への教員研修、または出前授業などを積極的に行うことによって、県全体のレベルアップが図られると思っています。せっかくやる事業ですので、こういう継続した、次から次に新しいものが輩出されて安定した、成長する熊本県になっていったらいいなと思っています。よろしくお願いします。

【木村知事】

田口委員ありがとうございました。回答というよりも、まずは皆さん、各委員の皆様からいろいろいただいて、質問等があればその都度、事務局の方からお答えさせていただくということです。では他に、委員先生方がでしょうか。では西山委員お願いします。

【西山委員】

私からも2点あります。まず菊池農業高校については、西日本最大級の敷地と農地を保有されていますので、スマート農業の実践学習普及には最適な高校であると思っていますし、西日本のモデル校になると考えますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。

その中で1点目は総合学習についてです。教育の基本となるものの1つに、課題解決能力や能動的学びを養成する総合学習、探究型授業があると考えています。菊池農業、天草工業、人吉高校、それぞれの計画の中にも、小中学生が農工業や理数の学びに触れる機会についての記載がある中で、この事業が小中高、それぞれにおける探究の学びを深化させる機会となって欲しいと思っておるところです。例えば、全国の事例としては、渋谷区では、特例校として、午後はすべて、小中学校は総合学習の時間になっています。また、学力の面でトップクラスである秋田県では、探究型事業で自発性を引き出し、地域や社会を良くしたいと願う子どもを増やしたということで、小中学生の幸福感調査が先日行われましたが、それでも全国トップになっています。ぜひ小中高連携の総合学習の推進強化も、併せて検討いただければありがたいと思ひます。

2点目は普及についてです。全事業計画に他校への普及方策のテーマがあり、必要性が掲げられています。この方策の1つには、その授業のリアル配信もそうなのですが、オンデマンド配信を含めた情報発信が有効であると考えています。この事業の情報発信をはじめ、小中の総合学習の優良事例発信なども含めた、発信型のプラットフォームとなる県教育ホームページのブラッシュアップを強く望んでおります。新たなサイトの構築なども含めて、事業に加えていただければありがたく思ひます。どうぞよろしく御検討のほどお願いします。以上です。よろしくお願ひします。

【木村知事】

ではそういう話を伺って、そして事務局の方からもお答えさせていただいて、ちょっと深めていきたいと思ひますが、その他にいかがでしょうか。三淵委員、よろしくお願ひします。

【三淵委員】

全体としては地域性も考えられていて、熊本の真の発展に、社会全体の発展に繋がる可能性が高いなと感じました。私から3点あります。

まず、菊池農業高校についてです。最初に内容を伺ったときに農業高校は、体力勝負じゃないかと思っていたのですが、中身を見ますとスマート農業、農業DXを推進し、稼げる農業を目指している。すごく魅力に溢れて、今までと違ったイメージが湧き上がってきた。農業高校に行きたいという子供たちが増えるのではないかと期待しています。また、ワイン製造というところも稼げる農業に繋がるのではないかと。熊本は金賞を受賞したという報道がありましたので、そういう点も魅力的と思いました。

天草工業高校について、私は天草によく行きますが、少し遠いことから、その辺のアクセスの問題や企業がどんな形で卒業生を受入れていくかということも含めて、産学官金と連携すると書いてありますが、他の教育委員会以外の部署からも、支援が必要じゃないかと思った次第です。

最後に、熊本高校について、熊本高校がいわゆる拠点になって、様々なITを活用して、連携するという話で、これは非常に大事だと思いました。連携する時に他の高校に配信するということですが、熊本高校の生徒にどんなメリットがあるのかと思いました。ここに書いてあるように社会実装型探究学習、生徒同士が双方向に繋がるというところが、いわゆる授業だけでなく、双方向であるところが素晴らしいと思っています。実際、毎年12月にあるスーパーハイスクール学びの祭典で、熊本高校の生徒が、ストーリーを考えて、高森高校の生徒が漫画を描いたというのが、去年か一昨年か、展示してあって、生徒同士もそういう連携をやっているのかと感心しました。それがこういうツールがあれば、さらに深まって、地方と繋がることでさらに様々な可能性が拡がると熊本高校の生徒にもメリットが出てくるのではないかと思います。

質問は、他の高校同士のネットワークというのも、熊本高校のネットワークを通して、活発にできるのかという点です。熊本高校と地方の高校だけではなく、熊本高校以外の高校同士の繋がりについてどう考えているかをお聞きしたいです。以上です。

【木村知事】

ありがとうございます。ご質問への回答は後ほど事務局からしたいと思います。それでは、園田委員。お願いします。

【園田委員】

このプランは、県内全域で地域と高校の活性が図れる内容で素晴らしいと思います。それでこの基金で大切なのは、この事業後、最終的に熊本県が何を指すのか、そして子供たちにどうなって欲しいのか。その上で熊本県全体がどうなりたいのかということが、もう少し可視化されるといいと思います。例えば菊池農業高校であれば新規就業者が増えて、就農率が上がることでどういうことに繋がるのか。そして、人吉高校では、理系人材を増やすには、高校や大学を卒業した後、理系の企業で働くという具体的なロールモデルを示すことが重要だと思います。特に女性は理系に進むことがなかなかイメージできないということを知っています。理系の高校や大学に進学してもその先にどのような仕事があるのか、どんなことをするのか、イメージしにくいということをよく聞きます。なので、この事業の後、永続的にメリットが残るように、基金の事業の先を見据えて計画案を作成するといいと思います。以上です。

【木村知事】

ありがとうございます。渡辺委員、お願いします。

【渡辺委員】

今回、「未来を切り開く」、「全て教育に繋がる」と知事もおっしゃっていましたが、やはり県の教育、公立高校というのはすごく重要だと思うので、今回の基金を使ってやっていくことは非常に重要だと思います。今回、こういう機会があることは素晴らしいと思っています。その中で私が特に思っているのは4つ目の多様な学習ニーズに対応した教育機会の確保についてです。熊本高校が出てくるところですが、実践的学習機会の制約を超えた学びということで、社会実装型・探究学習で、これまでも探究学習はやってきていると思いますが、さらにそれを深めていくと、生徒たちが、地元の企業と繋がりながら、実際の社会の仕組みとか、そういったものを見たり、体験したりしながら、自分の将来像を描いて、学んでいくことがすごく大事だと思っています。そういう中で、自ら考えて、起業家精神みたいなものを身につけていく。これは熊本高校だけではなくて、アドバンスト・エッセンシャルワーカー育成においても、地元の企業とか地元の農業等をやっている方と接していく中で、皆が自分で社会において何ができるのかというのを考える機会を作っていく。それを教育と結びつけていくということがすごく大事だと思います。先ほど他の委員の話で、基金がなくなった後の資金提供という意味でも、企業と結びついていることはすごく大事だと思っています。九州寺子屋という、福岡でやっている取組がある。これは民間がやっていることですが、そこには10歳から15歳までの子を集めて、資金を出すだけでなく、経営者が自分たちの経験談を話した

り、自分たちの職場に来てもらい、経験してもらったりしている。そうすることで、自ら考えて、夢を志に高める教育みたいなものを行っている。それは、熊本でこれからやろうとしている取組の中でも、何か活かせるところがあるのではないかと考えています。以上です。

【木村知事】

ありがとうございました。では教育長、お願いします。

【越猪教育長】

先ほどから探究活動とか、アントレプレナーシップという言葉が出ていますけれども、地域や社会で活躍できる人材を育てるためには、県全体で、探究活動とかアントレプレナーシップ教育が必要だと考えています。これは単に起業する人材を増やすということではなく、自ら社会課題を見つけて、その解決策を探究する、そういう力を持った人材を育てていくことだろうと思っています。もう1つ、今回の基金事業については、産業イノベーション人材の育成がテーマというふうに先ほど事務局から説明がありましたが、不足する労働力を単に穴埋めするという発想ではなくて、探究活動、アントレプレナーシップ教育によって新たな価値を生み出す人材を育てて、新しいアイデアで、その労働力不足を解決していくという、そういうイメージで取り組む必要があると考えています。ですから、この4校を拠点校として作っていくわけですが、例えば、天草工業高校であればその地域の高校と連携して工業×農業ですとか、工業×福祉ですとか、そういった視点で具体的に探究活動、アントレプレナーシップを学ぶことができると考えていますので、そういう全体的な方向性を少し書き込んでいただいて共有できればなと思ったところです。以上です。

【木村知事】

ありがとうございました、6人の委員の皆様から様々な御意見をいただきました。いくつか事務局からお答えいただきたいところですが、高校教育課と、小中の連携という話もありましたので、できれば市町村教育局長からコメントをいただきたいと思っています。まずは高校教育課からお願いします。

【久多見高校改革推進室長】

高校改革推進室です。本当に様々な御意見いただきましてありがとうございます。多分野にわたっており、この場でどこまでお答えできるかというところですが、探究に関しては先ほど教育長からも御発言いただきましたとおり、どのテーマにも共通する部分だと思っています。しっかり全体に横串を通すような形で何か書き込みができればと考えております。それから、企業との連携の

部分についても多くの委員の方から御発言いただきましたが、やはり小・中学校の繋がりとそれから出口の方との繋がり、こういったものをしっかり繋げていくということが必要だと思いますし、まさに産業イノベーション人材ということですので、やはり出口の部分の繋がりをしっかり考える必要があると思っています。それから三淵委員からは熊本高校の遠隔の件での質問がありましたが、今回の3年間の基金事業という取組の中では、配信の拠点校・熊本高校と、協力校という形で地域の小規模校を現状想定しておりますので、現在、個別にそれらの学校と調整しているところです。まずは、その小規模校における学習機会の損失をしっかりとカバーしたいというところがありますが、双方向での学びのあり方というものはネットワークが構築されたならば、その広がりはその高校だけには留まりませんし、横展開できる取組だと考えています。まず3年間の基金事業の中で協力校と培ったノウハウ、成果を、他の高校にも波及していけるように考えていきたいと思っています。その他にも様々ございましたが、事務局からは一旦以上とさせていただきます。

【木村知事】

どうでしょう。小中学校から見てこの事業とどう連携していきたいと考えていますか。藤岡局長お願いします。

【藤岡市町村教育局長】

本日の高校教育改革の計画を見てもわかる通り、キーワードの1つとして小中学校との連携だとか、小中学校を巻き込むという表現がいっぱい出てきます。なぜこういう表現が出てくるかというと、天草工業高校であったり、菊池農業高校であったり、また人吉高校であったり、この県立高校というのはそれぞれの地域にあります。それぞれの地域の教育の基盤はどこにあるかといったらそれぞれの地域の小中学校ですから、そことそれぞれの高校が連携していくことは非常に重要だと改めて思っています。また、連携していく際の1つのキーワードとして探究的な学びはどういったことができるのか、また、どういったことが今後、子どもたちの深い学びに繋がっていくのかをしっかりと研究していかなくはないと思っています。以上でございます。

【木村知事】

先ほど田口委員からもありましたように、情報技術科が中学の方で進むという話は、天草工業に限らず人吉高校とも連携してこの事業に活かせると思いますので、高校教育課で事業の設定を工夫してください。あと園田委員からありました、この基金事業を通じてどうありたいかというストーリーについても是非考えて欲しいと思いますが、教育長いかがでしょうか。

【越猪教育長】

今回の高校教育課改革を1つはテコにしたいと思っています。今年度、実行計画を作成して、令和9年度から取組に反映していくということで、その時の鍵になる、大きな視点になるのが県立高校のあり方検討会からの学校づくりの視点ということで3本挙げられています。時代に対応した質の高い学びや地域の特性を活かした学びを多様な主体とともにつくる学校、世界や地域で活躍する人材を育てる学校、多様な他者と協働しながら社会に主体的に参画する心を育む学校、そういうことを学校づくりの視点として堅持しておく必要があると思っています。それともう1つは高校教育改革の真ただ中にいるのは私たちですが、その教育の成果を受け取るのは未来の子どもたち、今の子どもたちです。ですから知事がおっしゃっているようなサイエンスパーク構想ですとか、こどもまんなか熊本、そういう政策を踏まえてもうちょっと長期的な視点に立って熊本ならではの教育、人の集まる熊本県の教育、地域でもっと深く学ぶことができる学校がある熊本県。そういうことも園田委員の意見を踏まえて考えるべきことだろうと思っています。その流れの中で言いますと長期的な視点では、すでに球磨工業高校の伝統建築コースの中には専攻科がありますけれども、そういう地域に根差した、熊本に根差した文化をベースにしながら、最先端の学びができるような専攻科ですとか、国の方でも今議論になっていますけど、高専科というような話題も出てきています。そういうものを視点に入れながら限られた時間ではありますけども、長期的な視点に立って入れていく必要があると思っています。

【木村知事】

まさに、おっしゃる通りでして、今回はあくまでも4校は先導拠点校として地域のバランスや分野のバランスを考慮しながら選定していますが、4校だけが改革するのではなくて、県内50校全体の魅力化を図っていくのが今年度、実行計画を作っていくベースになりますので、それを忘れないでいきたいと思っています。また、この4校のうち、菊池農業高校、人吉高校や天草工業高校は、地域といいますか、人吉高校であれば人吉球磨全域、天草であれば天草全域の各高校、そして地元市町村との連携や、そして先ほど田口委員からお話あった通り、熱意も重要だと思っています。最後に高校教育課に聞きたいのは、そういう地元との関係で議論している中で、そうした熱意は十分でしょうか、いかがでしょうか。今の状況があれば、御報告いただきたいと思っています。

【久多見高校改革推進室長】

地元の熱意というところですが、例として、天草に関しては天草工業高校を

選定しておりますが、「オール天草で頑張りたい」という御意見を天草管内の他の高校からももらっていて、そういったものをうまく活かしながら、市の方とも今しっかり連携体制をとらせてもらっているところです。やはりそういう中で、ここまでの計画が出来上がっているという感じがします。同様に菊池も人吉もそうですが、やはり地元の自治体、首長、それから教育委員会ともしっかりと連携しながら進めていきたいと思っています。かなり熱意は感じています。

【木村知事】

ありがとうございます。先ほど西山委員から話があった菊池農業は西日本最大の敷地ということなのだけど、ここは菊池を超えて、県内すべての農業高校が、菊農をハブに何か展開していけると面白いと思っています。もし西山委員からもう一言あれば。西山委員から御意見があったホームページについてはいかがでしょうか。教育政策課お願いします。

【永田教育政策課長】

西山委員から、ホームページについては、以前から情報発信はもっと充実できないかという話を伺っています。今回の基金の中でもそうなのでしょうけど、日頃から何ができるかというところを考えていきたいと思っているので、一昨日の課長会でホームページの活用を十分お願いしますということをお願いしました。どんな形がいいかということもまた相談させてもらえればと思っています。

【木村知事】

では、西山委員、お願いします。

【西山委員】

ホームページについてはぜひお願いしたい。今のホームページを部分的に改造するよりも、別サイトを作ったほうがいいと思います。県庁のトップページから観光のサイトに行くと、もっともっと観光のサイトが出るし、くまモンランドも別サイトです。別サイトで作るとダイナミックな発信型になっているので、ぜひ教育委員会のページは職員の連携のためのページがあってもいいのですが、対外的には別サイトを作った方がいい。現在のホームページについては今までずっと言ってきましたけど、改造するのは中々難しいと思います。ですから、新しいサイトを検討いただきたいということが1点です。

それから菊池農業高校については先ほど話もあったように、西日本最大級の

敷地、農地な中で、やはりスマート農業というのは、1ヘクタールぐらいの圃場があって初めて最大の効果、効率が創出できます。そういった基盤整備も含めた形で、3反が3枚、9反でもいいですけど、1町前後の圃場を準備しながら、そういう方向に動いていければいいなど、最終的には効率を目指す中で、西日本も1町ぐらいの、区画整理が今後必要になってくるのではないかと思います。そのモデル的な高校になればありがたいと思っています。東日本には結構ありますが西日本にはありません。ぜひよろしくをお願いします。

【木村知事】

ぜひそうした点も含めて、案を練り込んでいきたいと思っています。本日は時間いっぱい様々な御意見をいただき、今日の回答だけでは十分じゃないところは、最終的な提出に向けて、御相談を申し上げたいと思っています。それでは今日の御意見を踏まえ検討を進めるということで、教育長、大丈夫ですか。

【越猪教育長】

はい。教育委員会事務局で、今日もらった御意見等をしっかり検討して、どういう形で具体的に反映できるのかということも含めて、検討させてもらいたいと思っています。以上です。

【木村知事】

では、提出に向けてしっかりと知事部局も含めて、最後の練りこみをしていきたいと思っています。今後とも事務局、教育委員会しっかりと連携を図って、教育大綱、教育施策の充実、そして着実な推進に努めて参りますので、委員の皆様におかれましては、引き続き、御理解御協力のほどよろしくお願い申し上げます。それでは事務局に進行をお返しします。

【事務局】

本日は貴重な御意見をいただきありがとうございました。委員の皆様からいただいた御意見を踏まえて、検討を進めて参ります。それでは以上をもって、令和8年度第1回熊本県総合教育会議を終了します。本日は誠にありがとうございました。